

2020年度千年村ゼミ
近江湖北地方荘園調査報告書

早稲田大学理工学術院 創造理工学部建築学科
中谷礼仁建築史研究室
千年村研究ゼミ

もくじ

第1回調査

第1回調査参加者：中谷礼仁 齋藤湧一郎 細井菜々子 齋藤拓

I. 調査目的

調査にいたるまでの経緯
近江湖北地方の選定理由
調査対象集落大字の選定
調査目的

II. 調査スケジュール

調査実施概要
調査実施の流れ
調査参加者
調査日程

III. テーマごとの分析と考察

III-1 集落の地形と形・水の利用詳細まとめ
III-2 湖北地域の城館の立地について
III-3 神社拝殿の建築について

第2回調査

第2回調査参加者：齋藤湧一郎 細井菜々子 伊東華奈子 荻野智樹 東野友紀 謝筠鉦

I. 調査目的

調査にいたるまでの経緯

高月町の選定理由

調査目的

調査対象大字の選定

II. 調査スケジュール

調査実施の流れ

調査参加者

調査日程

III. 大字ごとの集落構造の分析

高月町保延寺・雨森（細井）

高月町唐川（荻野）

高月町柏原（齋藤）

高月町東物部・西物部（東野）

IV. テーマごとの分析と考察

水路と民家の距離感・水路の使い方について（謝）

伊香郡富永庄における集落構造と土地条件の関係（荻野）

第1回調査

第1回調査参加者：中谷礼仁 齋藤湧一郎 細井菜々子 齋藤拓

I. 調査目的

修士2年 齋藤湧一郎

① 調査にいたるまでの経緯

中谷研究室千年村研究ゼミ（以下本ゼミと呼ぶ）では2018年度から中世荘園に着目し、古代から中世にかけて土地の開発史の展開や集落立地の変遷から集落の持続性について考察をする研究を行っている。

本ゼミの母体である千年村プロジェクトは古代の地名辞典である倭名類聚抄に記載のある地名が現在の地名に比定されたものを現在の地図にプロットし、日本全国における古代郷の立地傾向を空間的に示した。この背景には2011年の震災がある。震災において多くの村が被害にあったなかで、一方で被害にあわなかった村もあった。そこで長期にわたって災害や変化を乗り越え持続してきた地域の立地的特性を明らかにしようとする動機があった。千年村プロジェクトではそれらの古代郷に比定される地域を実際に訪れることで、立地的な有効性を確認してきた。古く古代から人が選択し住んでいた土地は現在でも持続に有利であるという傾向を見出すことができる。

本ゼミが中世荘園に着目するのは、古代以降の土地の私有制が認められ、より土地開発がすすめられた中世荘園の立地の展開や、土地開発の展開過程を歴史的に把握することで、地域の持続性に関して考察を進めるためである。

本ゼミによって中世荘園地が現在地名へ比定されたものを地図へプロット(*1)（以下荘園プロットと呼ぶ）する作業が完了し、その全国的な立地が空間的に示されつつある。

(*1) 荘園プロットの手法については石坂駿「中世荘園地の現在地比定に関する研究」（早稲田大学修士論文、2018）を参照のこと。



(図1) 本ゼミによる荘園プロット

2018年度は荘園プロットをもとに福井県福井平野及び鯖江・武生盆地を対象に調査を行った。荘園プロットにおいては本ゼミがその根拠としている「荘園データベース」によって荘園が史料に登場する初見年代が示されており、荘園の年代と立地を比較分析することが可能であった。2018年度の調

査では古代から中世にかけての土地の開発の段階を荘園プロットの分析によって明らかされ、また、それら土地開発の過程と立地条件が集落の持続性に与えている影響についても考察がなされた。(*2)
(*2)甲斐貴彬「地質・地形からみる中世荘園地の立地的特質—福井平野及び鯖江・武生盆地を対象として—」
(早稲田大学修士論文、2018)

2019年度以降はそれらの知見をもとに、土地開発史、荘園史、歴史地理学、都市史など中世に関する文献を読解してきた。2020年度は近畿地方の荘園プロットを重点的に行ったために、読解した文献も近畿荘園に関するものを多く選んだ。

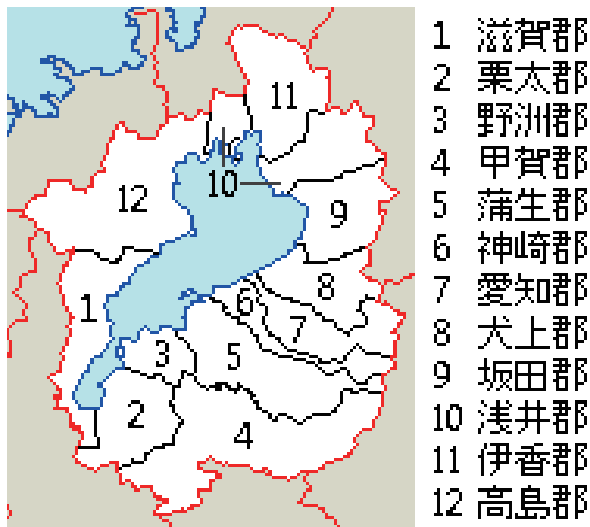
そのなかで近畿地方の荘園は全国的にみて数が多いこと、また荘園が比定される大字について、現在の一大字にひとつの集落が対応している場合が多く、大字ごとに特徴を捉えやすく、中世からの連続性を見出しやすいのではないかと理由のもとに近畿地方の荘園比定地に関心が向き、現地調査を行うこととなった。

② 近江湖北地方の選定理由

近畿地方のなかでも近江地方、さらには湖北地方を選定したのは以下の理由である。

- ・歴史学・考古学・環境学・建築学など様々な分野による先行研究が多いこと。(近江地方)
- ・史料が多いこと。また公開されている絵図などの資料が豊富であること。(近江地方)
- ・水辺から山辺までの地形のバリエーションがまとまった範囲内で見ることができる。(湖北地域)
- ・現在の都市開発がされすぎていないこと。(湖北地域)

さらに調査地域は郡ごとに設定することにした。琵琶湖が中央に立地する滋賀県では琵琶湖に流れ込む水系にそって郡域が展開している。本調査では伊香郡および浅井郡(西、東)を調査対象として選出した。



(図2) 滋賀県の郡域 (画像出典wikipedia[近江国]より、<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%BF%91%E6%B1%9F%E5%9B%BD>)

③ 調査対象集落の選定

次に具体的に調査を行う集落を選定する。本調査の目的は広域的な地域に対して集落立地や集落構造を把握することであるため、荘園ごとに代表としてひとつの大字をみることにした。調査方法は千年村プロジェクトの地域評価手法に基づき大字単位で行うこととした(*3)。そのため複数の大字に荘園が比定されている場合は、複数の大字から実際に調査を行う大字を選出する必要があった。

(*3)千年村プロジェクトでは大字を地域の持続の最小限の単位としてみなし、認証の基準としている。

複数大字から調査対象大字を選定する際の手順は以下の通り行った。

①史料がある（滋賀県立図書館、滋賀県立公文書館のデジタルアーカイブで確認できるもの）

②地形や土地利用が豊かであるとおもわれるもの（大字内での土地条件・他の大字との比較）

③集落の形の特徴（交通・水路など）

荘園データベースに記載のある30荘園のなかから20の荘園に対し、22の大字を選定した。（付録を参照）

荘園比定地域が重複するものや、現在史料が全くない集落、新興住宅地・工場などの開発で集落の形があまり見られない集落については除いた。また例外的に一荘園から2つの大字を選定したものもある。



(図2) 本ゼミによって各荘園ごとに選定した大字とその領域

④ 調査目的

以上を踏まえて当初設定した本調査の目的は以下の通りである。

- ・古代中世村落の開発過程で選り取られた地形の特徴・バリエーションを明らかにすること。
- ・近江国（伊香郡・浅井郡）における、中世荘園比定地の立地条件とそれに対する現在の集落構造を明らかにすること。

Ⅱ. 調査スケジュール

修士2年 細井菜々子

調査実施概要

【調査実施の流れ】

今年度の調査は新型コロナウイルス感染の拡大およびそれに関連した社会情勢を踏まえ、規模を縮小しつつ、新型コロナウイルス感染予防・拡大防止対策を徹底・最大限配慮した上で調査を行った。具体的な留意事項は以下の通りである。

- ・参加の可否については個人の判断を尊重する。
- ・ゼミとしての調査期間は短縮し、個人の判断に応じ前後の日程に調査を設けることで調整する。
- ・宿泊施設は個室を予約し、調査以外での接触回数を減らす。
- ・調査は基本的に車内で行う。また、車の窓は常時開放する。（雨天の場合でも極力開放する。）
- ・調査中はマスクを着用する。また、除菌シート等を車内に用意する。
- ・調査は基本的に車内から行い、集落内の車内調査が難しい場合は控える。必要に応じ集落内を歩く際は3密を避け、住民へのヒアリングも無理に行わない。
- ・当日の成果は調査に参加しないゼミ生も交えWeb会議サービスを用いて共有する。

【調査参加者】

教員：（歴史工学/早稲田大学理工学術院教授）中谷礼仁

学生：（修士2年）齋藤湧一郎、細井菜々子、（学部4年）齋藤拓

【調査日程】2020年8月7日（金）～8月8日（土）以下調査スケジュール

8月7日（金）

10:00 疾走調査を行う。訪問した集落は以下の通りである。

伊香郡富永庄/雨森 集落全体を車内から見た後、天川命神社を見学した。その後雨森北部にある井口を訪問し、日吉神社を訪問した。



図1 雨森大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

伊香郡伊香庄/杉野 車内から集落全体を見た。



図2 杉野大字領域航空写真

伊香郡余呉庄/下余呉 車内から集落全体及び余呉湖を見た。



図3 下余呉大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

13:00 昼食

14:00 疾走調査を行う。訪問した集落は以下の通りである。

浅井郡塩津庄/塩津浜 道の駅：奥びわ湖水の駅を見学した後、集落内部と内湖跡地周辺を車内から見た。



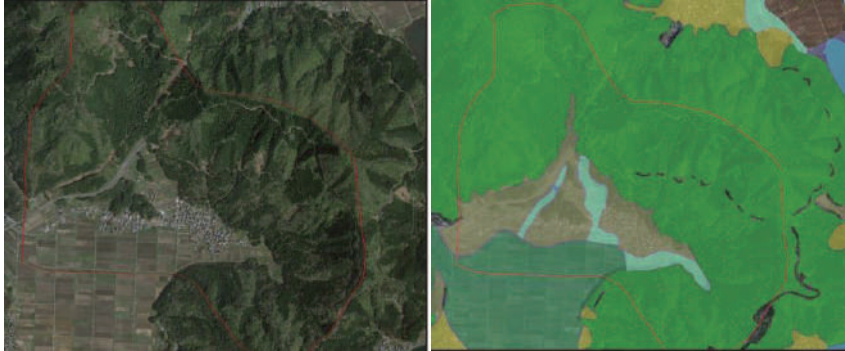
図4 塩津浜大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

伊香郡中庄/大音 賤ヶ岳リフトにて賤ヶ岳を登頂し、湖北平野全体を確認した。



図5 大音大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡大浦庄/八田部 盆地地形内の3集落（八田部・山田・小山）を車内から見た。



伊香郡菅浦庄/菅浦 集落全体を車内から見た（豪雨の為断念、後日訪問）。

図6 八田部大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

19:00 カルチャーセンター臨湖にてzoomを用い、ゼミ生と成果を共有した。

8月8日（土）

9:00 疾走調査を行う。訪問した集落は以下の通りである。

浅井郡南福庄/南浜 車及び徒歩にて集落全体を見た。



図7 南浜大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡矢儀庄/下八木 車内から集落全体を見た。



図8 下八木大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡浅井保/唐国 集落全体を車内から見た後稲荷神社を訪問し、住民にヒアリングを行った。また、山内一豊公初所領之地記念碑及び墓地（城郭跡地とされる）を訪問した。



図9 唐国大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡浅井保/月ヶ瀬 車内から集落全体を見た。



図10 月ヶ瀬大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡今西庄/延勝寺 車内から集落全体を見た。



図11 延勝寺大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡浅井庄/田中 車内から集落全体を見た。



図12 田中大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

浅井郡朝日郷/山本 車内から集落全体を見た後、山本山を登頂し、山本山城跡を確認した。



図13 山本大字領域（左）航空写真（右）土地条件図

13:00 昼食

14:00 高月観音の里歴史民族資料館（滋賀県長浜市高月町渡岸寺229）にて同館学芸員佐々木悦也氏にヒアリングを行う。ヒアリングでは、主に高月町の水利の管理・「おこない」についてお伺いした。また、同館にて以下資料を入手した。

- ・高月町史編纂委員会『滋賀県伊香郡高月町 町内の「おこない」写真集』
- ・高月町史編纂委員会『滋賀県伊香郡高月町 町内の「おこない」』
- ・高月町史編纂委員会『滋賀県伊香郡高月町 村落景観情報（町内各区・村落景観情報全）』
- ・高月町史 景観・文化財編 分冊一
- ・高月町史 景観・文化財編 分冊二
- ・（付録）高月町域水系図



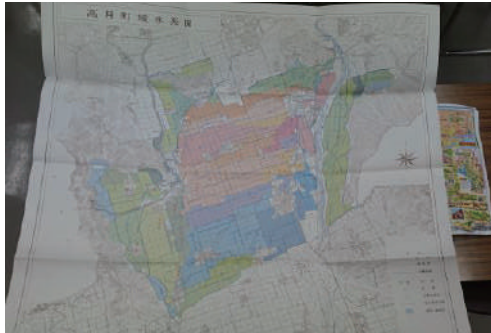


図14
(左上)佐々木様へのヒアリング
(右上)購入書籍書影
(下)高月町域水系図

16:00 ヒアリングでお伺いした集落を訪問した。

高月町渡岸寺 集落内を車で訪問した後、八幡神社の野神を見学した。

高月町西野 集落内を車で訪問した後、西野水道（初代放水路・2代目放水路）を探索した。



図15 西野大字領域(左)航空写真(右)土地条件図

19:00 カルチャーセンター臨湖にてzoomを用い、ゼミ生と成果を共有した。



図16 1日目 (8/7) GPSログ

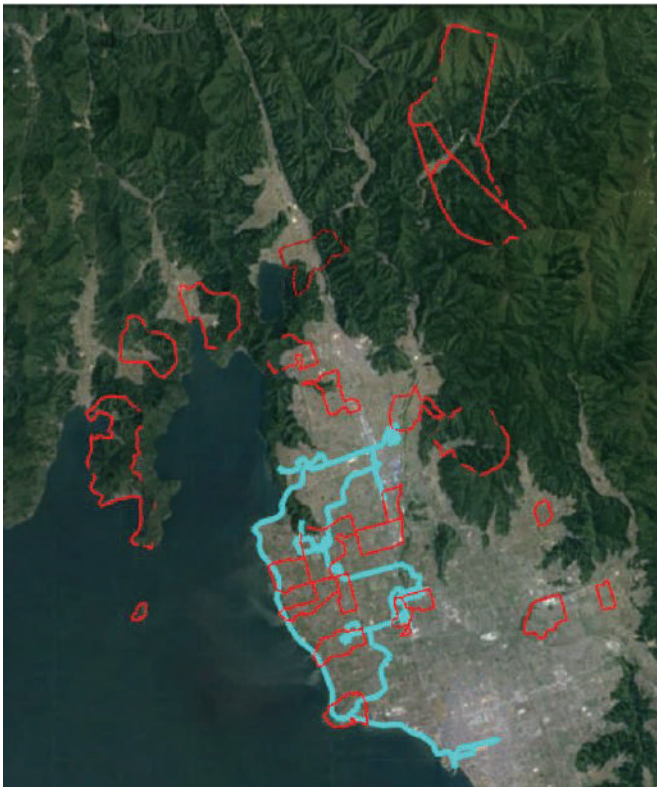


図17 2日目 (8/8) GPSログ

Ⅲ. テーマごとの分析と考察

Ⅲ-1 集落の地形と形・水の利用詳細まとめ（細井菜々子）

Ⅲ-2 湖北地域の城館の立地について（斎藤拓）

Ⅲ-3 神社の拝殿形式について（齋藤湧一郎）

Ⅲ-1集落の地形と形・水の利用詳細まとめ

修士2年 細井菜々子

伊香郡富永庄/雨森

① 史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
高時川沿いの扇状地上に位置する集落である。

高月観音の里歴史民族資料館学芸員佐々木悦也氏へのヒアリングによると、湖北地方の平野部の水田地帯では河川からの取水のみでは用水が不足していた為、昭和40（1965）年開始の湖北農業水利事業・揚水施設の増加や水路改修を行う平成10~21（1998~2009）年実施の新湖北農業水利事業に伴い、余呉湖から幹線水路を經由して導水している。雨森集落内の水路は高時川から取水している。1985年には「ふるさと滋賀の風景を守り育てる条例」の、近隣景観形成協定の1号として認定され、地域活動としても住民らによる水路の維持が成されている。

②実見によって得られる客観的情報

天川命神社を中心とし、それを囲うように集落が形成されている。また、参道から境内を通じて田部山を望むような配置となっており、山に対する自然信仰が伺える。

神社内には山車倉が設けられ、拝殿形式が見られる。また、天川命神社境内の看板によると、境内には滋賀県指定自然記念物の樹齢300年以上（推定）のイチョウの木が聳え立っており、「宮さんの大イチョウ」と呼ばれて親しまれている。



図1 雨森内の水路



図2 拝殿



図3 雨森まち歩きマップ

伊香郡伊香庄/杉野

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
山間部の谷底平野上に位置する村落である。南西部に水田・北東部に杉野川に沿って集落が集中しており、森と居住地の境界に神社が立地する。

②実見によって得られる客観的情報
集落内の建物の規模は全体的に高く、茅葺屋根の名残を持つ住宅も多く見られた。針葉樹が植えられており、林業を主な産業とする集落であると考えられる。



図4 元茅葺屋根の住宅



図5 横山神社

伊香郡余呉庄/下余呉

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
山間部の氾濫平野・自然堤防・扇状地上に位置する集落である。余呉湖への分流に位置し、北陸街道に沿っている為、湖上・陸路交通の要となる地であったとされる。現在も集落沿いには国道365号・北陸本線・北陸自動車道等が通り、湖北地方と長浜市をつなぐ重要な町となっている。

② 実見によって得られる客観的情報
余呉湖沿いの記念碑によると、菅原道真の羽衣伝説・賤ヶ岳七本槍の逸話などの舞台となり、静かな余呉の里としてその情景を語る歌も残されている。

雨森芳洲庵前館長の平井茂彦氏へのヒアリングによると、長浜市内で見られる赤い柱・梁の住宅は、耐久性向上の為にベンガラを使用しており、その山地が余呉に豊富にあるため使用されたとされる。



図6 余呉湖沿いの記念碑



図7 参考：ベンガラ塗装の住宅（杉野にて撮影）

浅井郡塩津庄/塩津浜

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報

三角州・自然堤防・干拓地上にまたがり、集落は自然堤防上の塩津街道沿いに位置する。万葉集に「高島の阿渡の水門を漕ぎ過ぎて塩津菅浦今か漕ぐらむ」と書かれるように、大浦・海津と並んで平安時代以降から北陸道からの物資を大津まで運ぶ際の湖上交通の要の地であった。

②実見によって得られる客観的情報

国道8合織沿いに建つ道の駅：奥びわ湖水の駅では、土産用の写真や工芸品、地域の野菜・米・海産物・銘菓といった食品の他、薪・木桶・炭・土壌改良資材・苗・昆虫や金魚といった愛玩動物やその生き餌など、日常生活品も扱われていた。店内のPOPによると、海産物（生小鮎）に関しては沖すくい漁（7月頃まで）・魩漁（8/20頃まで）の販売がされている。

また、道の駅を始めとして長浜市内では特定非営利活動法人まちづくり役場による「長浜・米原パノラマ鳥瞰図」が貼られており、湖北地方の特徴を知ることができた。

塩津街道沿いの町並みは妻入りで間口の広い住宅が立ち並び、宿場町のような趣が見られた。町の大半は塩津街道もしくは大坪川沿いに建っており、これはかつて川から荷物を積んで街道沿いの商店等に運んだ湖上交易の名残であると推測される。また、かつて船の停留所であった場所は現在自然公園となっている。

内湖であった埋立地は現在荒地となっている。



図8 道の駅:奥びわ湖水の駅



図9 長浜・米原パノラマ鳥瞰図



図10 街道沿いの町並み



図11 街道沿いの町並み

伊香郡中庄/大音

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
賤ヶ岳山麓の扇状地上に集落が位置する。明治期の村絵図では荒地や畑を挟んで山麓から少し離れた位置に屋敷が立地していた。

③ 実見によって得られる客観的情報
賤ヶ岳リフト上から湖北地方平野部を眺めることができた。賤ヶ岳内の看板によると、柴田勝家と羽柴秀吉が天下をかけ争った賤ヶ岳の合戦の地であり、当時は南麓大音の里には24軒の農家があったとされる。山中には合戦の死者を弔う石像が置かれ、毎年4月の山開き祭の行事として毎年供養されている。



図12 伊香具地区地域づくり協議会観光マップ



図13 賤ヶ岳山頂



図14 賤ヶ岳砦跡

浅井郡大浦庄/八田部

① 史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
八田部盆地の山麓体堆積地形の斜面上に集落が位置する。大正期の水利図からは矢田部川と山麓の湧き水によるため池を利用していたと考えられる。

②実見によって得られる客観的情報
同盆地内の小山・山田が急斜面沿いに密集しているのに対し、斜面の道沿いに町が並び、外部に開かれた印象を受けた。



図15 八田部の集落



図16 参考 山田の集落

伊香郡菅浦庄/菅浦

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
葛籠尾崎の先端付近の谷底平野・凹地上に立地する集落である。

中世期の住民による自治組織（惣）やそれに伴う庶民の生活を記す史料が多く残されていることから、中世の生活を知ることのできる宝庫として知られている。「菅浦の湖岸集落景観」として平成26年に文化財保護法に基づき国選定重要文化的景観として指定されている。現在は奥琵琶湖パークウェイの開通により交通の便が向上しているが、開通以前は船や徒歩が主要な交通となっていた。集落の東西両端にある四足門は、人の居住地である領域と山の神々が住む外界を分けていたとされる。

「菅浦与大浦下庄界絵図」では、菅浦と大浦が日指・諸河という田んぼの所在を巡る相論の記録が残されている。

②実見によって得られる客観的情報
日指・諸河は現在立ち入り禁止の地域となっていた。

集落は湖岸沿いの扇状地形に位置する為、防波堤もしくは家屋を建てる平地を作る為の石垣が道路・湖岸と平行に設けられている。舟入り跡内の湖岸沿いに建つ建物は宿泊施設や物産店が多く並ぶ。集落内には20箇所ヤンマー菅浦農村家庭工場の作業場がある。集落内の看板によると、これらは1960年頃に農業・漁業の作業の合間に水上交通の要である船の動力を製作していたとされる。

山地斜面上にある阿弥陀寺は境内看板によると1353年草創の時宗寺院であり、本堂は「道場」として集落の集会場所的役割を担っていた。



図17 集落内地図



図18 集落から見た集落

浅井郡南福庄/南浜

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
姉川河口上の水敷・砂丘・自然堤防上に位置する集落である。

『日本歴史地名大系』「南浜村」によると、水害（1755）、琵琶湖の水位が2尺上昇（1758）、天明飢饉は厳しく飢人108人（1782）、火災で47軒消失（1734）した記録が見られる。

②実見によって得られる客観的情報
集落内の建物の大半は敷地や土台がかさ上げされており、水害対策の名残であると考えられる。また、水路の分岐点などに避難所や水路用の止水板が設けられ、水害に対する意識が確認できる。



図19 建物のかさ上げ



図20 避難所と市水板



図21 稲荷神社境内

浅井郡浅井保/唐国

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報

高時川と田川に挟まれた集落であり、大字領域内中央部の後背湿地上に水田、北部の微高地と田川を挟んだ南部に集落が立地している。

『角川日本地名大辞典』「唐国」によると、大雨の際には姉川から田川へ流水が逆流するため、田川上流の当村は、月ヶ瀬・田・酢の3か村とともにしばしば浸水による大きな被害を受けたとされる。

② 実見によって得られる客観的情報

唐国の住民へのヒアリングによると、集落内にある稲荷神社の参道は、かつては高時川に垂直な方向に設けられていたが、現在は住宅地から訪問しやすいよう集落内道路に垂直な方向に設けられたとされ、生活の軸の変化が確認できた。また、大字領域内南～中央部の水田内には山内一豊公初所領之地の石碑があり、山内一豊を題材とした大河ドラマが放映されて以降は観光に訪れる者も多い。現在水田となっているエリアにはかつて集落があったが、河川の増水により水没しやすい箇所であった為北部に移動していったといわれる。所領のうち城跡は現在墓地となっており、その規模が実感できる。



図22 稲荷神社境内



図23 山内一豊公初所領之地の石碑と墓地

浅井郡朝日郷/山本

①史料・ヒアリングによって得られた客観的情報

集落は山本山と余呉川に挟まれた自然堤防上に設けられ、余呉川南部の氾濫平野上に耕作地が位置する。

③ 実見によって得られる客観的情報

今回訪問した集落の大半が荘園成り立期中世に名前が確認できる地域であることに対し、唯一平安期から名前が確認できる古代郷である。平野部に立地する他の地域が条里の区割りに沿って密集し、いささか閉鎖的な印象を受けたことに対し、この集落は自然地形の高低差を先行する形態として建物や道路が成立

しており、周囲に対し開かれている印象を受けた。

山中看板によると、集落北部に位置する山本山内の若宮山古墳は湖上交通と北陸街道の要所を占める位置にあることから、古墳時代前期において湖北交通の実見を掌握していた者によって築造されたと考えられる。



図24 集落内



図 宇賀神社（山本山入口）

佐々木悦也氏ヒアリング：高月町 渡岸寺・雨森・井口

① 史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
高月観音の里歴史民族資料館学芸員佐々木悦也氏へのヒアリングによると、井口は高時川の取水に近い位置にある関係上水利の要として考えられ、戦国時代には浅井氏の支配を受けた。浅井氏は権力を背景に下流に優先的に水をひくバイパスを作ったとされる。元々集落は小さく纏まっていたが、兄弟が分家するなどして徐々に拡大したとされる。高時川は

頻発した増水で橋が流されたとされ、対策として橋の材木に名前を書き、水が引いた後に川下等へ材木を回収し再利用していたといわれる。雨森の館（現芳洲庵）の東には当時浅井の武士が馬をとめた「馬場」といわれる場所がある。また、井口の日吉神社内には馬を奉納する像が祀られている。

集落北部には湖北野神として崇められる巨木があり、八幡神社の野神（柏原野神のケヤキ）は最も見た目の美しい樹木として知られる。1大字1野神を原則として水路の分岐点・境内など重要な位置にあり、毎年8月16日は野神の祭日として五穀豊穡が祈られる。

② 実見によって得られる客観的情報

佐々木悦也氏へのヒアリングによると、今年にはコロナの情勢を踏まえ複数の集落と合同で行われており、集落内水路の分岐点上の巨木に竹を結びつけて祀られていた。



図26 野神



図27 野神

佐々木悦也氏ヒアリング：高月町 西野

① 史料・ヒアリングによって得られた客観的情報
高月観音の里歴史民族資料館学芸員佐々木悦也氏へのヒアリングによると、西野は周辺の集落と比べ低地に位置すること・北西部を山に囲まれ雨水も集中する為排水に不利な環境であり冠水しやすい地域であった。江戸時代中期頃、住民らは余呉川から氾濫した水を琵琶湖へ放水する為に、充滿寺第十一代住職西野恵莊を指導者とし、藩や隣村の承諾を得つつ、古保利丘陵を掘り貫き放水路を設けた。この西野水道は、滋賀県指定文化財にも指定されている。その後も余呉川の水事業が続き、現在は初代（1778～1894年）・二代目（1950年）・三代目（1980年）が残る。

② 実見によって得られる客観的情報
集落は微高地上に存在する。左岸沿いは河川のすぐ傍に集落が位置することに対し、右岸側の微細な高低差を読みとった立地である。集落内の看板によると、西野水道は現在初代・二代目放水路跡内を探索することが可能であり、放水路を抜けた先の岬では釣りやマリンスポーツが行われる。
また、山上にある古保利古墳群には、陸地からは見ることができず琵琶湖上からしか望めない古墳も存在し、水上交通との関与が考えられる。



図28 西野周辺地形図



図29 西野水道内部 (3代目)



図30 西野水道内部 (2代目)



図31 西野水道内部 (初代)

小結

水辺から山地まで地形のバリエーションを見ることができ、地理的環境の利用法が地域性に彩りを与えていた。特に平野部においては、水利の管理体制や、神社・寺・集会所といった集落の中心となる施設が整っており、共同体における核の存在が確認できた。一方で、農業生産が限られた山間部や湖岸沿いの集落においては、今回の調査内で明確に結論つけることはできなかったものの、山々や湖岸などの周辺の地理的環境によって定められた境域と、村落をつなぐ道や交通網により、村落に完結性と自治性がもたらされていたことが推測できた。

また、今回訪問した各地域では、民俗資料館に加え集落内に地図や看板等が設置される他、住民らによる地域景観の保全維持活動も見られ、集落の持続について研究の展開の余地が見られる地域であった。

今後の研究においては、中世荘園比定地としての立地条件の種類を踏まえた上で、現在見られる集落の構造と求心力について明らかにしたい。

湖北地域の城館の立地について

学部4年 齋藤拓

1.はじめに

湖北地域の平野部には多くの城館が分布している。滋賀県の調査では、約1300の城館が確認されている。この報告においては、今年のゼミのテーマである、地形・開発のバリエーションに注目して湖北地域の城館の立地を調査した結果を述べる。

今回の調査の中で、特に重点的に調査を行った旧高月町（合併により長浜市に編入、旧伊香郡）周辺の遺構の残る城館について立地、現状などをまとめる。また地形、開発は城館の立地にどのように影響したのか考察したい。

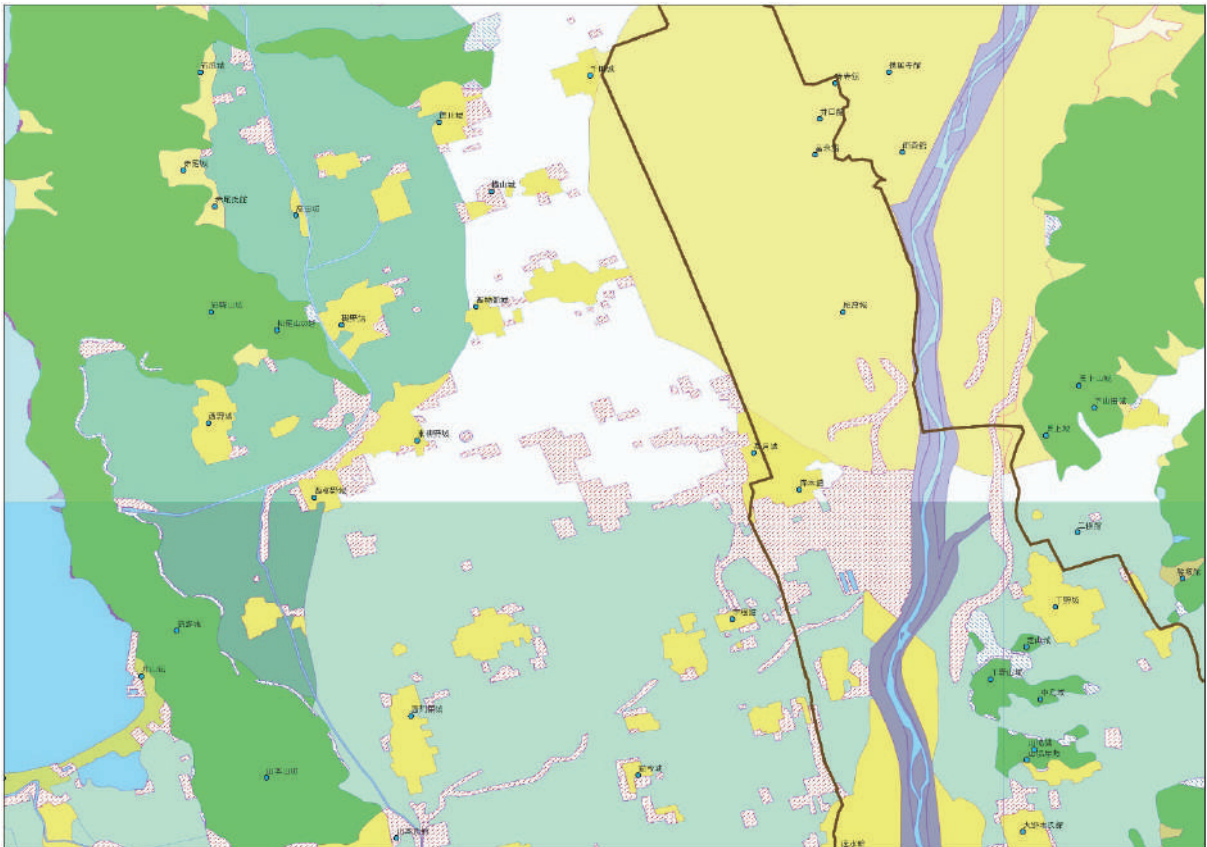


図1 旧高月町周辺の城館

2.旧高月町の城館(立地、現状)

2-1.小山館



図2 小山館周辺航空写真・土地条件図